



# シギ・チドリ類調査 ニュースレター



2023年度冬期概要版

環境省自然環境局生物多様性センター / NPO法人バードリサーチ

## モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査 2023年度冬期調査結果の概要

### 全国107ヶ所のサイトで実施

2023年度冬期調査は、2023年12月1日から2024年2月29日までの期間に実施されました。全国107ヶ所のサイトで調査を実施し、このうち一斉調査（2023年1月14日を基準日とした前後1週間の調査）には82サイトが参加しました。一斉調査期間では、シギ・チドリ類35種21,579羽のほか、ツクシガモ5,686羽、ヘラサギ56羽、クロツラヘラサギ292羽、ズグロカモ×5,009羽が記録されました。冬期の全サイトの最大個体数（調査期間内に記録された各種個体数の最大値）の合計は、シギ・チドリ類41種36,522羽のほか、ツクシガモ6,685羽、ヘラサギ113羽、クロツラヘラサギ523羽、ズグロカモ×6,007羽でした。

### 3年連続で冬期の個体数は減少

1999年度冬期以降の「全サイト」と「継続サイト（調査が継続されているサイト）」のそれぞれの最大個体数の合計を、グラフに示しました（Fig.1）。全サイトの最大個体数の合計は、前年度と比べ2,147羽減少、継続サイトでは前年度と比べ1,224羽減少し（前年度比、全サイトで5.9%減、継続サイトで5.4%減）、全サイト・継続サイトともに、3年連続で減少しました。

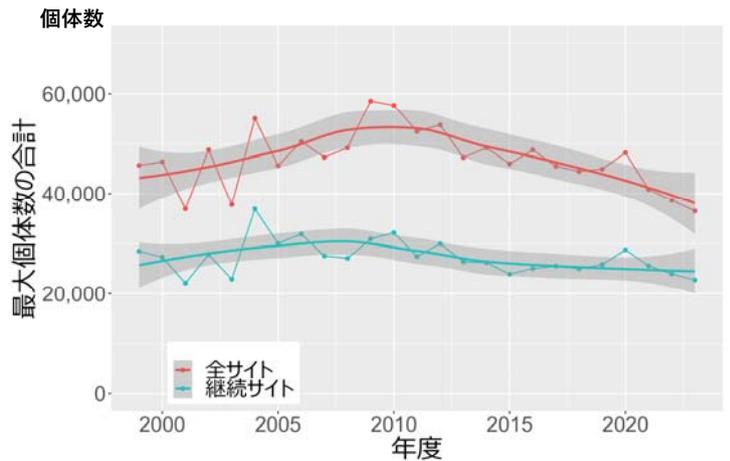


Fig.1 冬期調査における全サイトと継続サイトの最大個体数合計の推移 (1999年度から2023年度の継続サイトN=32)

### 上位の構成種はほぼ変わらず

2023年度冬期調査におけるシギ・チドリ類の種構成比をみると、個体数上位は、ハマシギ64.7%（23,636羽）、シロチドリ8.9%（3,241羽）、ダイゼン6.7%（2,456羽）でした（Fig.2）。総個体数の過半数を占める1位のハマシギと2位シロチドリ、3位ダイゼンの順位は過去10年間で変化はありませんでした（Fig.3）。その他の順位では、6位ミヤコドリと7位タシギの順位のみ入れ替わっていましたが、上位種の構成は安定していました。シギ・チドリ類全体では、減少傾向にあるものの、構成比率はほぼ変化がなく推移しており、各種が同様な減少傾向にあるものと考えられました。

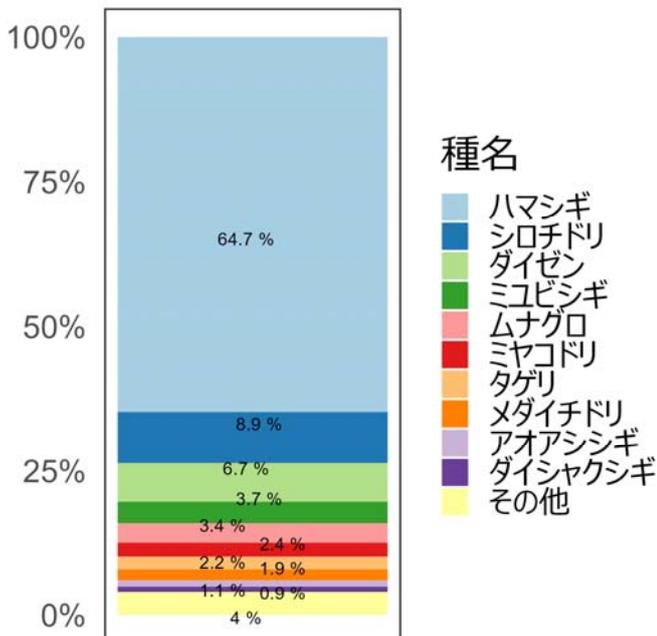


Fig.2. 2023年度冬期調査におけるシギ・チドリ類の種構成比

## ミユビシギ、アカアシシギは2年連続増加傾向

種別の最大個体数の前年度比では、ハマシギの減少数が最も大きく、3,244羽（約12%）減少となり（Table1左）、ハマシギは、ダイゼン、イソシギとともに2年連続して減少していました。増加数はミヤコドリが最も大きく、333羽（約60%）増加していました（Table 1 右）。また、ミユビシギ、アカアシシギは2年連続で増加していました。シギ・チドリ類以外のツクシガモ（5,686羽）、ヘラサギ（56羽）、ズグロカモメ（5,009羽）は、一斉調査時の個体数が、2004年の調査開始以来、最多でした（Fig. 4）。



Fig.3. 2023年度冬期調査における最大個体数上位10種の順位の変化（1999年度から2023年度）

Table1. 2023年度冬期 種別の最大個体数の前年度差 左：減少数上位5種、右：増加数上位5種

2023年度冬期最大個体数 減少数上位 (全サイト)				
種名	2022年度冬	2023年度冬	前年差	前年比
ハマシギ	26,880	23,636	-3,244	0.88
セイタカシギ	75	34	-41	0.45
タゲリ	831	794	-37	0.96
ダイシャクシギ	363	335	-28	0.92
チュウシャクシギ	128	105	-23	0.82

2023年度冬期最大個体数 増加数上位 (全サイト)				
種名	2022年度冬	2023年度冬	前年差	前年比
ミヤコドリ	540	873	333	1.62
ムナグロ	935	1,226	291	1.31
シロチドリ	3,050	3,241	191	1.06
ミユビシギ	1,189	1,366	177	1.15
メダイチドリ	524	698	174	1.33

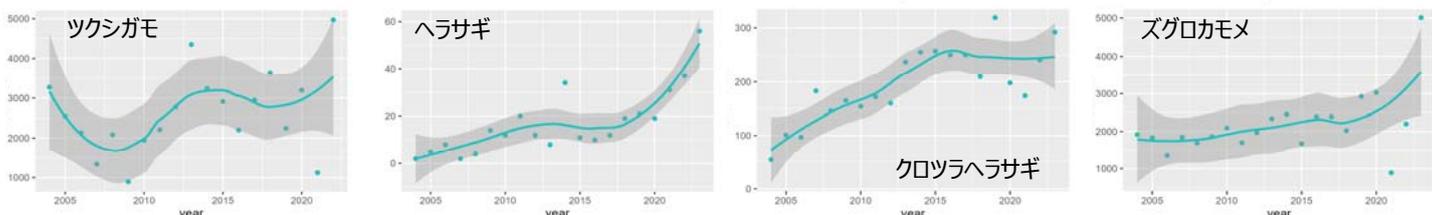


Fig.4. 冬期調査におけるミヤコドリとクロツラヘラサギの一斉調査時（1月中旬）の個体数合計の推移（2004年度から2023年度）

## 地域別のハマシギの分布や傾向

最大個体数の合計から、地域別のハマシギの分布や増減傾向を見ると、北海道、東北、北陸、沖縄南西諸島は、もともと個体数が多くなく、本州の太平洋側、九州に多数の個体が観察され、主要な越冬地と考えられます。主要な地域も関東、中部・東海地域では2000年から徐々に減少しており、関西・中四国、九州では、2010年あたりから減少傾向にありました。越冬地が南下していることも考えられますが、国外の状況も含めて分析する必要があります。

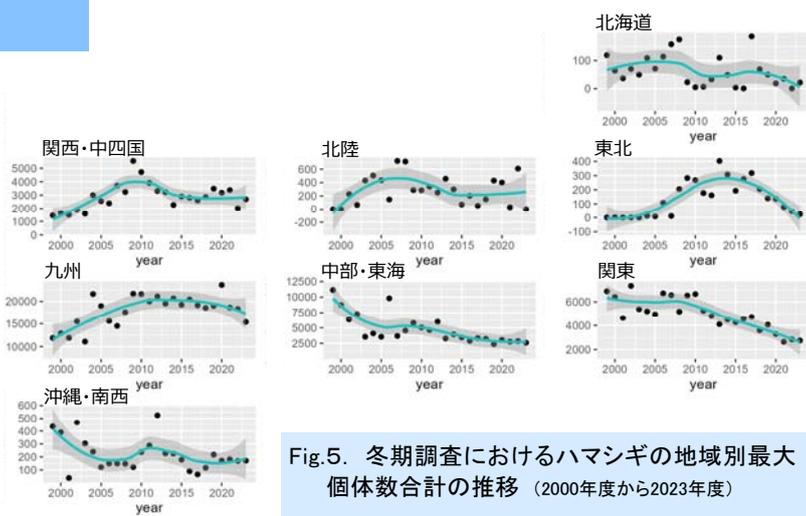


Fig.5. 冬期調査におけるハマシギの地域別最大個体数合計の推移（2000年度から2023年度）

## モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター タイトル写真：ハマシギ(守屋年史) 2023年度 冬期概要

発行元：環境省自然環境局生物多様性センター

<https://www.biodic.go.jp/moni1000/>

編集：特定非営利活動法人 バードリサーチ

<http://www.bird-research.jp/>

編集者 守屋年史

電話/Fax:042-505-4044

メール: shigichi@bird-research.jp